

整腸薬

製品群No. 12

ワーグシートNo.10

リスクの程度 の原価	A 薬理作用	日相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	D 産用のお それ	E 急性中毒(用法誤、過量投与等) 重篤な副作用におそれ	F 知能・効果(症状)の悪化 につなげるおそれ	G 使用方法(製剤)のおそれ	H スイッチ化等に伴う使用環 境の悪化	用法用量	機能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用注意	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 関するもの レナジー等に よるもの	薬理に基づく 薬性	急性中毒 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につなげるおそ れ	使用方法(製剤)のおそれ 投与量により、過量投与・誤使 用があるもの	スイッチ化等に 伴う環境の悪化		
乳糖成分										
ラクトミン	ラクトミンは、腸内菌叢の回復を促す作用がある。また、腸内菌叢の回復を促す作用がある。								通常、成人1日3～6錠を3回に分けて服用する。なお、年齢、症状により適量増減する。	効果又は効果 腸内菌叢の真 常による腸症 状の改善
ラックビー	ラックビーは、腸内菌叢の回復を促す作用がある。また、腸内菌叢の回復を促す作用がある。								通常、成人1日3～9錠を3回に分けて服用する。なお、年齢、症状により適量増減する。	腸内菌叢の真 常による腸症 状の改善
ラックボ	ラックボは、腸内菌叢の回復を促す作用がある。また、腸内菌叢の回復を促す作用がある。								通常、成人1日3～6錠を3回に分けて服用する。なお、年齢、症状により適量増減する。	腸内菌叢の真 常による腸症 状の改善
腸内菌叢成分	腸内菌叢に 対する作用、 化学療法剤 投与時における 腸内菌叢作用・ その他腸内 作用を有する								通常、成人1日15～3錠を3回に分けて服用する。なお、年齢、症状により適量増減する。	腸内菌叢の真 常による腸症 状の改善

消化薬

製品群No. 13

ワークシートNo.11

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ		D 薬用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効果・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(併用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 副作用の 悪化	I 用法用量	J 効果効果	
			重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ								
評価の観点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他 剤との併用に より重大な副 作用が誘発する おそれ)	併用注意	併用注意	薬理に基づく 習慣性	通院禁忌 本剤に対し過敏症 既往歴	症状の悪化 につながるお それ	使用対象の 悪化(症状の 悪化)に関する 注意(併用注 意)をおそれ	使用法(併用 使用)のおそれ 使用法(併用 使用)のおそれ 併用禁忌(他 剤との併用に より重大な副 作用が誘発する おそれ)	スイッチ化 等に伴う副 作用の悪化	効果効果	
ジアスターゼ	ジアスターゼ	ジアスターゼとしてでんぷん分解をする。	ジアスターゼ	ジアスターゼ	5%以上または頻度不明(過敏症)	本剤に対し過敏症 既往歴	症状の悪化 につながるお それ	使用対象の 悪化(症状の 悪化)に関する 注意(併用注 意)をおそれ	使用法(併用 使用)のおそれ 使用法(併用 使用)のおそれ 併用禁忌(他 剤との併用に より重大な副 作用が誘発する おそれ)	1回0.3-0.5g、1日3回、適 量増減	主として消化 物の消化 常症状の改善	
ジアスマン	単味なし											
ニューラーゼ	単味なし											
プロサイム	単味なし											
ホリバーゼ	単味なし											
リバーゼ	単味なし											
セルラーゼ	単味なし											
セルロシン	単味なし											
タカアスターゼ	タカアスターゼ	主として消化物の消化			頻度不明(過敏症)					1回0.2-0.3g、1日3回、適 量増減	主として消化 物の消化 常症状の改善	
バンクレア	バンクレア	消化作用			5%以上または頻度不明(過敏症)	本剤過敏症既往 歴、パンクレア タカアスターゼ 多量白質に対し過 敏症既往歴				1回1g、1日3回、適量増減	消化異常症状	
ヒオチアスターゼ	単味なし											
ヒオチミラーゼ	単味なし											

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

製品群No. 14

ワグシートNo.12

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重要な副作用のおそれ	D 薬用のおそれ	E 懸念物質(既知薬、治療状況等) (重要な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(服用のおそれ)		効能効果
							重篤な副作用のおそれ	使用方法(服用のおそれ)	
評価の観点	薬理作用	相互作用	併用注意	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ
アズレンスルホン酸ナトリウム	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	
アルジオキサ	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	
グリチルリチン酸ジモモニウムリチロン錠	抗炎症作用	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	
レグルタミン錠	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	
ゲファルナールカプセル	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	
銅クロロフィリン塩	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	併用薬との併用に際しては、併用薬の添付文書等を参照する。	下痢、嘔吐、腹痛、悪心、嘔吐等。	腎臓病、高齢者	症状の悪化につながるおそれ	服用方法(服用のおそれ)	胃酸・胃酸過多を抑制し、消化機能を改善する。	

動脈硬化用薬(リノール酸、シチン主薬製剤等)

製品群No. 23

ワグシートNo.18

リスクの程度 の評価	評価の観点	A 薬理作用	B 相互作用 相互作用 併用禁忌(他の薬物との併用により重篤な副作用が生ずるおそれ)	C 重篤な副作用のおそれ 重篤な副作用のおそれ 薬理・毒理に特異的薬量・アレルギー等によるもの 併用注意	D 薬用のおそれ 薬理に基づく留意性	E 重篤な副作用(慢性薬、治療状態等)との相互作用(投与により副作用の増悪・悪化のおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化)につながらず 症状の悪化につながらず 通称・効果(症状の悪化)につながらず	G 使用方法(薬使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		機能効果
									用法用量	副作用	
高コレステロール血症成分	リノール酸 トコフェロール	薬理作用 1. 動脈硬化の抑制 2. コレステロールの低下 3. 動脈硬化の抑制 4. コレステロールの低下 5. 動脈硬化の抑制 6. コレステロールの低下 7. 動脈硬化の抑制 8. コレステロールの低下 9. 動脈硬化の抑制 10. コレステロールの低下	併用禁忌(他の薬物との併用により重篤な副作用が生ずるおそれ)	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 薬理・毒理に特異的薬量・アレルギー等によるもの 併用注意	薬理に基づく留意性	投与により副作用の増悪・悪化のおそれ	症状の悪化につながらず 症状の悪化につながらず 通称・効果(症状の悪化)につながらず	使用方法(薬使用のおそれ)	副作用	機能効果	
高コレステロール血症成分	バンテンチン バンテンチン30	薬理作用 1. コレステロールの低下 2. 動脈硬化の抑制 3. コレステロールの低下 4. 動脈硬化の抑制 5. コレステロールの低下 6. 動脈硬化の抑制 7. コレステロールの低下 8. 動脈硬化の抑制 9. コレステロールの低下 10. 動脈硬化の抑制	併用禁忌(他の薬物との併用により重篤な副作用が生ずるおそれ)	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 薬理・毒理に特異的薬量・アレルギー等によるもの 併用注意	薬理に基づく留意性	投与により副作用の増悪・悪化のおそれ	症状の悪化につながらず 症状の悪化につながらず 通称・効果(症状の悪化)につながらず	使用方法(薬使用のおそれ)	副作用	機能効果	

貧血用薬

製品群No. 24

7-ゲンシートNo.19

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	D 薬用のおそれ	E 患者等薬理作用におよぼすおそれ	F 効果・効果(症状の悪化)につながるおそれ	G 使用方法(服用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用薬(他剤との併用)により重大な問題が生ずるおそれ	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの	薬理に基づく 薬性	巨悪等薬理作用におよぼすおそれ (相互作用) 再発・悪化のおそれ	症状の悪化 につながるおそれ	使用方法(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ)	スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効能効果
ビタミンB6 (ピリドキシン)	体内でリン酸 ピリドキサー ルとなり、細 胞・ミトコン ドリアンにおけ るB6酵素の 補酵素として 生体のタン パク質の中心 的役割を果た す。γ-アミノ ノ酸の生成 や各種のアミ ン酸(アドレ リン、ノルアド レリン、5-ヒ ドロキシトリ プトミン等)の 生成に不可欠 である。脂 質代謝との関 係も認められ ている。		重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの	薬理に基づく 薬性	巨悪等薬理作用におよぼすおそれ (相互作用) 再発・悪化のおそれ	症状の悪化 につながるおそれ	使用方法(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ)	スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効能効果
ビタミンB6 (ピリドキシン)	体内でリン酸 ピリドキサー ルとなり、細 胞・ミトコン ドリアンにおけ るB6酵素の 補酵素として 生体のタン パク質の中心 的役割を果た す。γ-アミノ ノ酸の生成 や各種のアミ ン酸(アドレ リン、ノルアド レリン、5-ヒ ドロキシトリ プトミン等)の 生成に不可欠 である。脂 質代謝との関 係も認められ ている。		重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの	薬理に基づく 薬性	巨悪等薬理作用におよぼすおそれ (相互作用) 再発・悪化のおそれ	症状の悪化 につながるおそれ	使用方法(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ) 使用量(服用のおそれ)	スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効能効果